

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人 中日新聞社会事業団

目 次

はじめに	… 1
沿革	… 2
寄付件数等一覧	… 3
本部	… 4
北陸支部	… 12
東海支部	… 16
東京支部	… 21
岐阜支部	… 24
中日青葉学園	… 28
あおば館（児童養護施設）	… 34
わかば館（児童心理治療施設）	… 38
子育て短期支援事業	… 44
社会福祉充実計画	… 45
地域における公益的取り組み	… 46
里親フォスタリング事業	… 47
高額寄託者・一般	… 48
高額寄託者・指定	… 50

は じ め に

社会福祉法人中日新聞社会事業団は本部並びに北陸、東海、東京、岐阜の4支部にて、社会福祉事業や公益事業への助成など地域に根差した幅広い活動を行っています。

愛知県日進市で運営する児童養護施設「あおば館」と児童心理治療施設「わかば館」からなる中日青葉学園は、虚弱児施設としての開設以来60周年を迎え、多くの社会的養護の対象児童の健やかな育ちと自立を支援してきました。

令和2年度は、里親フォスティング事業に着手。家庭“的”養護のみならず家庭養護の支援も開始し、社会的養護の対象児童のニーズに対し幅のある支援が展開できるよう準備をすすめています。

新型コロナウイルス感染症拡大にともない、本年度は数多くの事業が中止や延期となりました。当事者の方々やそのご家族、支援者の皆さまの活動に大きな影響と制約が生まれ、皆さまの活動を支援するという我々の在り方が問われるような苦しい1年でもありました。

一方で、リモートによる会議や資料の共有などが平成30年度には導入済みであり、運営面では、対面に拘らずスムーズに情報共有などがはかれたことから、各事業でも、その強味を生かした支援を模索していきたいと考えます。

日頃より、ご支援、ご協力をいただいている皆様方に感謝を申し上げ、透明性のある法人運営、事業展開を通じ、一層地域に根ざした社会福祉法人を目指していきます。

令和3年6月
社会福祉法人 中日新聞社会事業団

中日新聞社会事業団の沿革

社会福祉法人中日新聞社会事業団は、昭和 11 年 12 月設立の財団法人名古屋新聞善行会、翌年 4 月設立の社団法人新愛知社会事業団から始まり、社団法人中部日本弘徳会を前身とし、社会福祉法人中部日本新聞社会事業団を経て、昭和 49 年に現在の名称となった。昭和 32 年の事業団創立 20 周年を機に虚弱児施設の建設を決め、昭和 35 年、愛知県日進市に「中日青葉学園」の運営を開始した。

現在、施設経営のほか、本部、北陸・東海・東京・岐阜の 4 支部において年間 228 件の主催、共催、後援事業を行っている。障害者や難病者の自立、社会参加への支援、生活保護家庭や施設入所児童の援助など地域福祉から災害地支援まで、幅広い社会貢献を行っている。

昭和 18 年 7 月	財団法人「名古屋新聞善行会」と社団法人「新愛知社会事業団」が合併し、社団法人「中部日本弘徳会」を設立
昭和 21 年 12 月	社団法人「中部日本新聞社会事業団」を設立
昭和 26 年 2 月	同「中部日本新聞岐阜社会事業団（後に中日新聞岐阜社会事業団に改称）」を設立
昭和 34 年 1 月	沢井秀次氏と日進町岩崎区から土地（13,034 m ² ）の寄付を受ける
昭和 35 年 4 月	虚弱児施設中日青葉学園として児童定数 30 人、職員 7 人で事業開始
昭和 35 年 7 月	社会福祉法人「中部日本新聞社会事業団」として厚生省から認可
昭和 37 年 1 月	中日青葉学園を増築し、児童定数 70 人に増員
昭和 49 年 6 月	社会福祉法人「中日新聞社会事業団」と改称
昭和 54 年 12 月	中日新聞社会事業団北陸支部（金沢市）を設立
昭和 57 年 3 月	日本自転車振興会の補助と社会福祉・医療事業団から建設資金を借り入れ、 中日青葉学園全面改装
昭和 58 年 11 月	中日新聞社会事業団東海支部（浜松市）を設立
昭和 59 年 12 月	年末助け合い運動の一環として、美術品チャリティー販売の「第 1 回郷土の美術家 100 人展」を松坂屋本店で開催する
昭和 63 年 3 月	中日新聞社会事業団東京支部（東京都千代田区）を設立
平成 10 年 4 月	児童福祉法の改定により児童養護施設中日青葉学園となる
平成 12 年 5 月	社団法人「中日新聞岐阜社会事業団」解散 中日新聞社会事業団岐阜支部（岐阜市）として設立
平成 12 年 6 月	「中日福祉ボランティア賞」（愛・三・岐対象）創設
平成 15 年 10 月	中日青葉学園の新園舎が竣工し、児童養護施設に児童心理治療施設を併設、 複合施設として新たなスタート
平成 18 年 3 月	日本自転車振興会からの補助で小・中学校青葉分校新教育棟新築
平成 22 年 4 月	児童養護施設「中日青葉学園」創設 50 周年を迎える
平成 28 年 10 月	中日青葉学園園舎内外塗装工事
平成 29 年	事業団創立 80 周年を迎える
令和 2 年 6 月	青葉分校特別教室棟新築

《主な災害義援金》

☆阪神大震災義援金	平成 7 年 1 月 18 日～8 月 18 日	84,104 件	5,790,979,873 円
☆東海豪雨災害義援金	平成 12 年 9 月 24 日～11 月 10 日	2,209 件	421,966,342 円
☆新潟県中越地震義援金	平成 16 年 10 月 25 日～17 年 3 月 31 日	7,865 件	663,011,769 円
☆新潟県中越沖地震義援金	平成 19 年 7 月 17 日～12 月 13 日	1,490 件	120,294,971 円
☆東日本大震災義援金	平成 23 年 3 月 12 日～31 年 3 月 31 日	95,339 件	9,088,915,451 円
☆熊本地震義援金	平成 28 年 4 月 15 日～6 月 30 日	13,932 件	1,091,554,693 円
☆西日本豪雨義援金	平成 30 年 7 月 10 日～8 月 10 日	9,240 件	529,263,200 円

事業件数

	主 催	共 催	後 援	合 計	うち中止・延期
本 部	1	6	65	72	30
北陸支部	5	1	1	7	2
東海支部	11	0	4	15	1
東京支部	1	0	3	4	2
岐阜支部	2	2	7	11	2
合 計	20	9	80	109	37

寄付金収入一覧

(単位：円)

	本 部		北陸支部		東海支部		東京支部		岐阜支部		合 計	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
一般寄付金	411	88,258,187	51	459,652	35	759,669	11	173,933	32	997,343	540	90,648,784
年末助け合い	287	17,521,775	31	559,038	63	2,648,133	104	1,198,219	48	1,833,222	533	23,760,387
指定寄付金	88	10,840,243	6	85,000	4	272,887	58	1,007,199	16	161,000	172	12,366,329
合 計	786	116,620,205	88	1,103,690	102	3,680,689	173	2,379,351	96	2,991,565	1,245	126,775,500

主な災害義援金と指定寄付金累計

東日本復興支援金

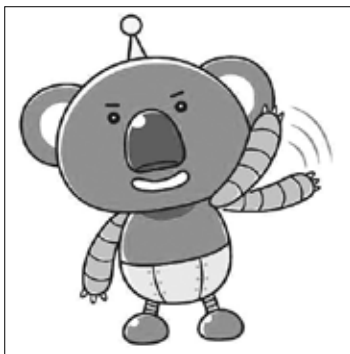
	件数	金額
本 部	974	75,186,713
北陸支部	16	435,417
東海支部	18	487,194
東京支部	192	6,460,084
岐阜支部	188	4,728,220
合 計	1,388	87,297,628

※募金期間：平成26年8月11日～令和2年8月31日

<中日新聞社への協力>

・令和2年7月豪雨災害義援金(7月14日～7月31日) 件数:2,740件 金額:76,190,320円

イメージキャラクター「ロボラ」



80周年を記念して、制作したイメージキャラクター「ロボラ」です。
困っている人に手を差し伸べる、心優しきコアラ型ロボットヒーロー！
体には人助けのためのあらゆる機能が搭載されている。とっても温厚で、おっとりした性格。しかし困っている人がいたら、どんなことがあってもたすける！と心に誓っています。

本部（名古屋）

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、リモートなどを活用し、支援を希望する団体との連絡、調整を実施。コロナ禍でも当事者の方々の福祉が低下しないように検討したものの様々な事業が中止となり、例年約 200 件実施している主催・共催・後援事業は、72 件の実施にとどまった。一方で、法人運営が円滑に進むよう、各支部とは緊密な連絡をとりながら取り組みを実施した。

◇社会福祉事業

（１）児童福祉施設等支援事業

・第5回 陶芸教室（3月28日・陶工房 鳴海）ファミリーホーム（小規模住居型児童養育事業）で生活する子ども達が、表現する心地よさや楽しさを体感することや食育を目的に、茶碗などの食器を作成した。子ども達が作った作品は、焼成され、後日ファミリーホームへ届けられる。参加した子ども達は、自分の作品を自ら使用する予定。約30人の児童と養育者が参加した。



ろくろで作陶体験する子ども

共催：愛知県ファミリーホーム協議会ほか

40 年以上毎年実施されていた、愛知県児童福祉施設長会や名古屋市児童養護連絡協議会などが主催する、文化、スポーツ事業（音楽の集い、運動会、海の家など）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

（２）社会福祉事業への助成

社会福祉充実計画の一つとして、中部・関東地域の児童養護施設、特定相談支援事業など、13 事業所に助成金を配分した。

◇公益事業

(1) 研修会・講演会・講座の開催、支援事業

a. 児童

・交通遺児支援事業

「交通遺児のために役立てて」と個人や企業から寄せられた寄付金をもとに交通事故で親を亡くした子どもたちを励ますために行う支援事業。東海交通遺児を励ます会が把握している遺児は東海三県で約 500 人。今年度は、恒例となっている大相撲招待、サマーカヌースクールなどの主要行事は中止となったが、中学を卒業する交通遺児を励ます集いは、3 月 21 日に開催され、中学校を卒業する 16 名と、その保護者が集い、関係者などが新たな門出を祝った。



中学卒業を祝われる交通遺児たち

b. 障がい者

地域社会での障がい者福祉の増進、理解および交流を深めることを目的に、肢体・聴覚・視覚・精神・知的などの障がい者団体が主催する講演会、シンポジウム、研修事業などに対して中日新聞紙面で紹介するなどの支援や助成金などを贈呈した。

c. その他

・第 11 回福祉の星フォーラム(11 月 28 日・愛知県社会福祉会館第 1 研修室)

「福祉」のイメージアップと福祉人材の確保を目指し、講演会と現場で働く若者らによるシンポジウムを開催した。今年度は「新型コロナウイルスから福祉現場を守るために」をテーマに公立陶生病院感染職内科主任部長の武藤義和医師が講演。また日本福祉大学中央福祉専門学校専任教員・渡辺哲雄さんをコーディネーターに迎え「with コロナ時代の福祉戦略」をテーマにディスカッションを行った。会場参加とオンライン参加を併せ 100 人を超える参加があった。



パネルディスカッションの様子

共催：愛知県社会福祉協議会、NHK厚生文化事業団

2) 社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

a. 障がい者

・ あいちアール・ブリュット展（7月1日～3月15日・市民ギャラリー矢田ほか）

愛知県内の障害者の芸術・文化活動を通じて、障害者の社会参加や、地域住民の障害に対する理解を深め、障害の有無をこえた交流が広がることを目指し、障害のある人からの公募作品約650点、過去の入選作品、アート雇用で活躍する障害者の作品等を展示。また、障害の有無にとらわれずに作成された朗読劇の映像作品展示や、その映像作品をインターネット動画サイトへ投稿するなど、活動を行った。

共催：愛知県、名古屋市文化振興事業団

・ 年末助け合い運動

（11月24日～12月28日・中日新聞支社、総・支局、通信部・局）

年末の約1ヶ月をキャンペーン期間とし、本部には、287件、17,521,775円が寄せられた。愛知、岐阜、三重各三県の生活保護家庭の小中学生約4,900人にお年玉を贈るほか、福祉事業に助成した。

・ 助成を希望する公益事業に対する支援

▽第41回生活保護家庭の小中学生に「お年玉」を贈呈

12月下旬に愛知、岐阜、三重の各県と名古屋市に在住する生活保護家庭の小・中学生合わせて4,896人に、各県市の福祉事務所を通じて「お年玉」（小学生1,500円、中学生2,500円）を贈呈した。（昭和54年から継続）

	小学生		中学生		合計	
	人数 (人)	金額 (円)	人数 (人)	金額 (円)	人数 (人)	金額 (円)
愛知県	872	1,308,000	596	1,490,000	1,468	2,798,000
岐阜県	236	354,000	138	345,000	374	699,000
三重県	481	721,500	331	827,000	812	1,549,500
名古屋市	1,378	2,067,000	864	2,160,000	2,242	4,227,000
合計	2,967	4,450,500	1,976	4,822,500	4,896	9,273,000

▽第 64 回東海地区特別支援教育振興資金贈呈

(6 月 30 日)

心身障害児や高機能自閉症児、学習障がい児らの教育研究、実践啓発活動を行っている愛知、岐阜、三重、静岡の各県と名古屋市の 5 つの特別支援教育研究団体に研究助成金として 1 団体 20 万円を贈呈した。贈呈式は中止とした。

▽第 46 回難病者激励金贈呈

成田山名古屋別院大聖寺（犬山市）と同信徒団体「索（なわ）の会」から寄託された激励金（3,015,444 円）を愛知県 7 団体、岐阜県 6 団体、三重県 5 団体の難病者団体に贈呈した。

	団 体 名	県	団 体 名
愛 知	愛知県難病団体連合会	岐 阜	岐阜県難病団体連絡協議会
	全国筋無力症友の会 愛知県支部		岐阜県心臓病児者の会
	愛知線維筋症患者・家族会 エスペランサ		日本リウマチ友の会岐阜支部
	全国膠原病友の会 愛知県支部		岐阜県腎臓病協議会
	愛知県腎臓病協議会		日本てんかん協会 岐阜県支部
	Fabry NEXT（ファブリー病者支援）		岐阜県網膜色素変性症協会
	glut1 異常症患者会	三 重	三重難病連
			全国パーキンソン病友の会 三重県支部
			三重県腎友会
			三重心臓を守る会
			三重もやの会

(3) 災害援護に関する事業

・東日本復興支援事業

例年、実施している東日本大震災からの復興を目指す団体への配分事業については、被災地団体の「コロナ禍により、活動がままならず配分を受けても事業実施が困難。来年以降に持ち越してほしい。」との要望を受け、来年度に配分を見送った。

・災害支援事業

各地で甚大な被害を出した令和2年7月豪雨災害の義援金の受付業務を、中日新聞社に協力し行った。新型コロナウイルス感染予防策として郵便振替と現金書留でのみの受付だったが、7月14日～31日の受付期間中に東海三県から2,228件67,595,972円が寄せられた。

なお、本支部に寄せられた総額76,190,320円については、被害状況を鑑みて、下表のとおり配分した。

県 名	配 分 金 額
山形県	1,000,000 円
岐阜県	5,000,000 円
島根県	1,000,000 円
福岡県	7,000,000 円
熊本県	52,190,320 円
大分県	9,000,000 円
鹿児島県	1,000,000 円
合 計	76,190,320 円

事業一覧 (本部)				
開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会場
4/12	第40回愛知県聴覚障害者体育大会 ※中止	後援	一般社団法人 愛知県聴覚障害者協会	日進市スポーツセンター
4/17～19	第21回陶展 第18回チャリティーバザー ※中止	後援	陶工房鳴海	東桜会館
4/18～2/20	名古屋手をつなぐ育成会 青年教室 ※中止	共催	名古屋手をつなぐ育成会	手をつなぐ育成会福祉会館ほか
4/19	チャリティーマラソンin庄内緑地 介助犬の活動を応援しよう ※中止	後援	名古屋米ライオンズクラブ	庄内緑地公園周回コース
4/22～11/19	第17回名古屋市障害者スポーツ大会 ※一部中止	後援	名古屋市	パロマ瑞穂スタジアムほか
4/24～5/24	令和2年度愛知県障害者スポーツ大会 ※中止	後援	(社福)愛知県社会福祉協議会	星ヶ丘ボウルほか
4/25	第10回ジョギングフェスティバル ※中止	後援	スペシャルオリンピックス日本・愛知	パロマ瑞穂レクリエーション広場及びその周辺
4/26	難病・疾病患者・家族の生活・療養一斉相談会 ※中止	後援	NPO法人愛知県難病団体連合会	名古屋人権啓発センター ソレイユプラザ なごや研修室
5/1～24	浅井力也アロハ展ー文化交流フェスティバルー ※中止	後援	なごやアートフェスティバルー浅井力也とフレンズー 実行委員会	愛知芸術文化センター12階 アートスペースG・M
5/14～16	第23回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2020～ ※中止	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)
5/24	公益社団法人 リウマチ友の会愛知県支部 第57回大会 ※中止	後援	公益社団法人 日本リウマチ友の会 愛知支部	ウインクあいち 小ホール1
5/29～31	いろんなみんなの展覧会 まじわる ※中止	共催	(公財)岐県教育文化財団	ぎふ清流文化プラザ
6/2～12/17	令和2年度面接相談事業	後援	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団	愛知県教育会館ほか
6/7	第56回名古屋肢体登山大会 ※中止	後援	名古屋市肢体障害者福祉連合会	池の平レイクサイドプラザ(長野県)
6/11～14	第68回全国ろうあ者大会 ※中止	後援	第68全国ろうあ者大会inあいち実行委員会	名古屋国際会議場
6/14～2/7	福祉に関するレクリエーション講習会 ※中止	共催	愛知県レクリエーション協会	愛知県教育会館ほか
6/26～27	難病の日啓発イベントin一宮 ※中止	後援	NPO法人愛知県難病団体連合会	一宮駅前ビル・ビル シビックスステラス
6/27～28	第49回 全国児童養護問題研究会 全国大会(愛知大会) ※中止	後援	全国児童養護問題研究会	ウインクあいち、キャッスルプラザ
7/1～3/15	あいちアール・ブリュット展	後援	愛知県	市民ギャラリー矢田ほか
7/12	ソーシャルワーカーデー2020inあいち ※中止	後援	愛知県社会福祉士会	愛知淑徳大学 星ヶ丘キャンパス記念講堂
7/21～8/31	令和2年度 高校生ボランティア活動並びに体験文募集 ※中止	後援	社会福祉法人 中部善意銀行	
7/30～31	第42回東海北陸地区特別支援教育研究大会愛知大会 ※中止	後援	愛知県特別支援教育研究協議会	一宮市尾西市民会館、iビルほか
8/7～3/1	東海特別支援教育カンファレンス2020	後援	東海特別支援教育カンファレンス実行委員会	オンライン
8/12	令和2年度岐阜県優良母子家庭表彰	後援	岐阜県母子寡婦福祉連合会	岐阜県福祉農業会館2F 大会議室
8/20	NPO法人響愛学園10周年記念コンサート ※中止	後援	NPO法人響愛学園	愛知県芸術劇場コンサートホール
8/23～12/6	令和2年度 青少年の自立支援事業「トライアルキャンプ2020」 ※中止	後援	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団	愛知県教育会館ほか
8/29～31	第2回名古屋コインショー	後援	日本貨幣商協同組合	ウインクあいち8階展示室
8/30	令和2年度愛盲連文芸大会	後援	(社福)愛知県盲人福祉連合会	明生会館
9/1～3/31	名古屋少年友の会更生保護行事 ※一部中止	後援	名古屋少年友の会	愛知少年院 ほか
9/10～12/10	第68回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	

9/19～9/20	夏だ！、海だ！、篠島だ！家庭養護の仲間たちで作る 離島自然体験活動	後援	愛知県ファミリーホーム協議会	篠島 浜辺の宿 大舟
9/23～2/28	第34回ふれあいフォトコンクール	後援	愛知県社会福祉協議会	愛知県社会福祉協議会
9/21～9/22	令和2年度 愛知県児童福祉施設入所児童ソフトボール 交流大会	後援	愛知県児童福祉施設長会	幸田町とぼね運動場
10/1	第46回 名視協文化祭	後援	名古屋市視覚障害者協会	名身連福祉センター 4階ホール
10/7～13	第72回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	社会福祉法人愛知県共同募金会	NHK名古屋放送センタービル1階プラザ ウェーブ21
10/8	令和2年度第2回三重県母子寡婦福祉連合会市郡会長 会議 中日賞贈呈	後援	(一財)三重県母子寡婦福祉連合会	三重県母子寡婦福祉連合会 会議室
10/12～14	2020年度 世界精神保健デー普及啓発事業「アルテ・ エ・サル・テ公演」※中止	後援	特定非営利活動法人 東京ソテリア	浜松市福祉交流センター 名古屋市公会堂
10/17	第38回昭和区の福祉まつり シンポジウム	後援	第38回昭和区の福祉まつり実行委員会	昭和区役所
10/17～18	令和2年度療育事業(キャンプ) ※中止	後援	愛知県知的障害者育成会	ホテル&リゾーツ伊勢志摩
11/2～8	令和2年度 作品展「てをつなぐ」	後援	愛知県知的障害者育成会	豊橋こども未来館ここにこ
11/8	虐待防止啓発活動チャリティーコンサート	後援	特定非営利活動法人 アヴェニール	中電ホール
11/15	三重県アールブリュット&ミュージックブリュット“自由か ら世界が始まるART2020”	後援	特定非営利活動法人希望の園	津市アクトプラザ4階 アストホール
11/17	第68回愛知県社会福祉大会	後援	(社福)愛知県社会福祉協議会	ドルフィンズアリーナ
11/20	第13回健康づくりウォーキング大会 ※中止	後援	公益社団法人 名古屋市老人クラブ連合会	東山公園一万歩コース
11/21～23	せとアール・ブリュット芸術文化祭2020	後援	瀬戸市市民活動登録団体 スマイルプロジェクト	瀬戸蔵 市民ギャラリー
11/28	福祉の星フォーラム	共催	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会	オンライン
11/29	パネル・ディスカッション「居場所を見つけた子どもたち -虐待を生き抜いて-」	後援	特定非営利活動法人 なごやかサポートみらい	オンライン
12/5	第38回愛知県心身障害児(者)福祉大会 ※中止	後援	愛知県心身障害児(者)福祉団体連絡協議会	愛知県社会福祉会館5階 第一研修室
12/5～13	令和2年度小牧市障がい者作品展 こまきアール・ブ リュット展	後援	小牧市	小牧市まなび創造館 市民ギャラリー
12/5～2/11	愛知県社会的養護自立支援事業「自立セミナー」 ※中止	主催	中日新聞社会事業団	ウィルあいち 料理スタジオ
12/9	令和2年度地域共生社会推進セミナー	後援	社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会	アイリス愛知
12/12	第76回ボランティアスクール	後援	(社福)あさみどりの会	さわらび園
12/19	日本特殊陶業がお贈りする第8回ファミリーミュージカル	後援	株式会社 劇団飛行船	日本特殊陶業市民会館
12/19	ISOGAI花火劇場in名古屋 次世代を担う子供たちに美しい 花火を	後援	名古屋港冬花火実行委員会	名古屋港ガーデン埠頭一帯
12/19～3/13	愛知県精神保健福祉の増進に関するネットワークづくり 実施事業	後援	特定非営利活動法人 愛知県精神障害者家族 会連合会	県白壁庁舎5階会議室
12/20	第54回 東海交通遺児を励ます大会 ※中止	後援	公益社団法人 東海交通遺児を励ます会	サイブレイスガーデンホテル
12/26	2020中日青葉学園招待スケート教室	後援	中日新聞社会事業団	名古屋スポーツセンター
1/25～2/7	高次脳機能障害リハビリテーション講習会(Web講習会)	後援	高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行 委員会	オンライン
1/19～24	第58回特別支援教育展「きらめき展」 ※中止	共催	名古屋市特別支援教育研究協議会	名古屋市博物館
1/23	愛の鈴チャリティ「生きる」名古屋公演 supported byフロ ンティアの介護 ※中止	後援	東海テレビ福祉文化事業団	ウインクあいち大ホール
1/23～25	第44回世界の貨幣まつり	後援	日本貨幣商協同組合	ウインクあいち 6階展示場
2/2～7	第55回名古屋市障害者作品展	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市博物館

2/7 ~ 2/14	令和2年度 第35回愛知県児童福祉施設親善マラソン大会 ※中止	共催	愛知県児童福祉施設長会	新城総合運動公園陸上競技場及び周遊道路
2/11	NHKハートフォーラム名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋講演会「実は身近な発達障害」	後援	名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋	オンライン
2/27	第23回 あした天気にな〜れ	後援	一般社団法人 愛知県精神保健福祉士協会	名古屋国際会議場
2/28	LGBT「出張授業」	後援	ガールスカウト愛知県第55団	昭和区生涯学習センター

北陸支部

本部や中日新聞北陸本社、富山主幹支局と緊密な連携をとりながら各県内の関係機関、団体などの協力を得て令和2年度の事業を推進した。

◇社会福祉事業

(1) 社会福祉事業に関する助成を行う事業

・大井中日就学(職)支援 (3月10日・石川県内児童養護施設)

七尾市の中高生の就学を支援してきた「大井中日奨学福祉財団」の解散に伴い、平成24年3月に引き継いだ残余財産を、趣旨及び継続を考慮した「大井中日就学・就職支援金」として今年度も実施した。

県内にある児童養護施設8施設で暮らす中学校の卒業生に贈呈。今春高校に進学、就職する子どもたち19人に新生活の準備に役立ててもらおう。

(2) 助成を希望する障がい者関連施設に対する支援

・年末助け合い運動 (11月24日～12月28日・石川県内)

中日新聞北陸本社と連携をとり、広く募金活動を展開。支部では、31件、559,038円の募金が集まり、石川県内の障がい者支援施設6施設へ届けた。

◇公益事業

(1) 研修会・講演会・講座の開催、支援事業

・あすなろ親の会(ひきこもりを考える会)例会 (月1回・石川県内各所)

ひきこもりの子どもを持つ親たちが、月1回石川県内の会場にて意見交換会や、ひきこもりへの理解を深めるため講師を招いて講演会を開いた。

(2) 社会福祉、保健医療の向上を目的とする事業の実施及び支援

a. 障がい者

・「第41回金沢手をつなぐ親の会水泳大会」を支援 ※中止

障がいのある子どもたちの保護者らで運営している金沢手をつなぐ親の会が開催。日常の体育訓練を通して、知的障がい児の身体的、心理的発達、社会的適合の促進向上を目指した水泳大会の参加者に、例年であれば参加記念品を贈っているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い大会中止となったため、支援することができなかった。

ｂ．その他

・2020 年度 中日ボランティア賞

(表彰式：12 月 5 日・ANA クラウンプラザホテル金沢)

石川、富山県で地道な社会活動や、子どもたちの隠れた善行、他の模範となるボランティア活動をしている個人、グループや団体を顕彰した。

従来の「中日ボランティア顕彰」(成人対象)と「中日あおぼ賞」(青少年対象)を統合し、今回で 13 回目。

各県の福祉・教育関係機関、社会福祉協議会、公民館や図書館、病院、中日新聞北陸本社の支社、支局などから多数の推薦があり、社内外の選考会で 24 件(石川 13 件、富山 11 件)が選ばれ、受賞者に賞額、記念品を贈った。

後援：石川県、富山県、二県教育委員会、二県社会福祉協議会、
金沢市教育委員会



受賞者の皆さま

・乳児院に図書カード贈呈 (7 月 29 日・石川県内)

石川県内の乳児院 2 カ所に、1 施設あたり 20,000 円の図書カードを贈呈。

・北陸中日新聞主催展覧会 児童養護施設招待(石川県内) ※中止

年 1 回、北陸中日新聞主催事業に石川県内の児童養護施設に入所している子ども達を招待しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い展覧会の中止が相次ぎ、招待することができなかった。

(3) 災害援護に関する事業

- ・東日本復興支援金

東日本大震災の被災地で、保健・福祉の向上に関する事業を行う団体に対し助成を行うための支援金を受け付け。支部では 5 件、80,000 円が集まった。

- ・たまきはる福島基金

平成 24 年 3 月 1 日より受け付けを開始した、福島原発事故で避難を余儀なくされた子どもや若者などを精神的、経済的に支援する「たまきはる福島基金」を引き続き受け付けし、支部では 1 件、5,000 円が集まった。

- ・令和 2 年 7 月豪雨災害義援金

7 月 14 日～31 日の期間中、中日新聞社に協力し受付業務を行った。北陸支部には 19 件 304,718 円が寄せられた。預かった義援金は本部を通じて被災した各自治体の災害対策本部などに配分された。

東海支部

中日新聞東海本社と緊密な連携を取り、恒例の主催事業は新型コロナウイルス感染予防対策を講じて実施し、また新たに社会福祉事業の新規事業を立ち上げるなどして、静岡県下での令和2年度の事業を実施した。

◇社会福祉事業

(1) 児童養護施設等支援事業

- ・緊急事態宣言下の休校に伴い浜松市内児童養護施設入所者へ新聞贈呈

(5月1日－31日・浜松市内児童養護施設)

新型コロナウイルス禍の緊急事態宣言で休校になり、一日中施設で過ごすことになった浜松市内の児童養護施設3カ所の小・中・高校生らに、時間を有効に使って新聞に親しんでもらえるよう、こどもウイークリーや中日新聞朝刊を届けた。また中・高校生には中日春秋書き写しノートも贈った。

- ・浜松市内児童福祉施設出身の大学生らに支援一時金を贈呈(6月)

新型コロナウイルス感染拡大により、アルバイトを休まざるを得ないなど、生活が困窮していた浜松市内児童養護施設3カ所出身の大学生ら8人に、各施設を通じて支援一時金として一人5万円を贈呈した。

- ・浜松市内児童福祉施設入所者の
高校進学者へ電子辞書贈呈

(3月24日・浜松市内児童養護
施設3カ所)

浜松市内児童養護施設3カ所に入所している令和3年度高等学校進学の子供11人に、高校進学祝いと激励の意を込めて、高等学校で使用頻度の高い電子辞書を贈った。



児童養護施設の高校進学者へ電子辞書の
贈呈＝浜松市で

◇公益事業

(1) 研究会・講演会・講座の開催、支援事業

- ・第43回静岡県ボランティア研究集会

(2月14日・浜松市福祉交流センター) ※次年度へ延期

静岡県内でボランティア活動に関わる人たちが集い、情報交換やネットワークづくりを行うものだが、新型コロナウイルス感染予防のため、次年度へ延期となった。

主催：特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会、公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会

(2) 社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

b. その他

・ 第37回中日ボランティア賞

(贈呈式＝10月15日・ホテルコンコルド浜松)

静岡県内で積極的なボランティア活動に取り組む団体を顕彰する主催事業。静岡県、同県社会福祉協議会、同県ボランティア協会、浜松市が後援し、浜松市を除く後援3団体より16件の推薦を受けた。

受賞7団体（静岡県西部4団体、中部3団体）を選考委員会で決定。10月15日、ホテルコンコルド浜松で贈呈式を行い、賞状と奨励金（1団体150,000円）を贈った。



第37回中日ボランティア賞贈呈式＝浜松市で

・ 年末助け合い運動（11月24日～12月28日・中日新聞東海本社ほか）

中日新聞東海本社と連携をとり、広く募金活動を展開した。寄付金は65件、総額で2,654,133円となった。

・ 年末助け合い

第39回ふるさと知名人チャリティー色紙展

(10月31日、11月1日・遠鉄百貨店イ・コ・イ スカイ6階ギャラリー・吨・浜松市)

静岡県にゆかりのある知名人（画家・書道家・版画家・漫画家など）から、色紙作品の寄贈を受け、展示中に来場者が1枚4,000円で購入（一部入札あり）、その収益金を寄付金とする主催事業。中日新聞東海本社と連携をとり、浜松市の遠鉄百貨店の協力を得て開催。経費を除いた収益金（900,000円）の半額を年末助け合い運動資金に、半額を静岡県社会福祉協議会に贈った。



市民らでにぎわう第39回ふるさと知名人チャリティー色紙展＝浜松市で

・生活保護家庭の中学生に図書カード贈呈（12月16日・静岡県西部地区）

静岡県西部地区在住で生活保護家庭の中学生169人（浜松市133人、湖西市2人、磐田市15人、袋井市15人、掛川市4人）に、激励の意を込め図書カード1人5,000円分を贈った。

お礼状には、高校受験やテストに備えて参考書を買ったと書いている生徒が多く、図書カードを有益に使っている様子が見えた。

・生活保護家庭の小学校新入学児童に図書カード贈呈

（2月8日・静岡県西部地区）

静岡県西部地区在住で生活保護家庭の新年度小学校へ入学する児童34人（浜松市24人、磐田市2人、袋井市6人、掛川市2人）に図書カード1人3,000円分を贈った。保護者からのお礼状には絵本や図鑑を購入したとの声や、覚えてたのひらがなでありがとうと書かれた新入学児童直筆のものもあった。

・浜松市在住のひとり親世帯の小学生～高校生へ学業奨励（新聞購読）事業

（8月1日～9月14日・浜松市内）

浜松市在住のひとり親世帯の小・中・高校生に対し、長期休暇中の時間を有効に使って新聞に親しみ、時事問題への興味や読解力向上に役立ててもらうことを目的に、こどもウイークリーや中日新聞朝刊を届けた。また希望者には中日春秋ノートも贈った。

・浜松市在住の交通遺児中学卒業生へ電子辞書贈呈

(3月15日・浜松市内)

令和3年度に高等学校へ進学する浜松市内の交通遺児1人に、進学祝いと激励の意を込めて、高校で使用頻度の高い電子辞書を贈呈した。
浜松市子ども家庭部から情報提供を受け、直接郵送。

・ **社会福祉事業資金造成 第37回中日杯争奪チャリティーゴルフ大会**

(3月17日・豊岡国際カントリークラブ)

新型コロナ感染予防策を講じた上で豊岡国際カントリークラブで開催し、上位入賞者にトロフィーを贈呈。参加費の一部をチャリティー基金とし、90,000円の社会福祉事業資金が集まった。

・ **第32,33回スズキビジネスチャリティーゴルフ大会**

(7月16日、12月9日・いなさゴルフ倶楽部浜松コース)

地元企業が主催するチャリティーゴルフ大会。困窮している浜松市のペルー人学校を支援する目的で寄付を募る目的で開催しており、本大会を後援した。

主催：株式会社スズキビジネスチャリティーゴルフ大会実行委員会

・ **静岡県ボランティア協会年次レポート発行への助成(5月・静岡県)**

昭和52年に民間のボランティア活動推進機関として設立された静岡県ボランティア協会が平成19年4月に30周年を迎えた。これを記念し、同協会ではその後毎年年次レポートを発行しており、今年も助成金として50,000円を贈った。

主催：特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会

(3) 災害援護に関する事業

・ **災害義援金**

各地で甚大な被害を出した令和2年7月豪雨災害の義援金の受付業務を、中日新聞東海本社に協力し行った。新型コロナウイルス感染予防策として郵便振替と現金書留でのみの受付だったが、7月14日～31日の受付期間中に43件1,646,602円が寄せられた。預かった義援金は本部を通じて被災各自治体の災害対策本部などに配分された。

令和2年度事業一覧

(東海支部)

開催日	事業	主催・後援 (連携)	主催者	会 場
5月	静岡県ボランティア協会年次レポート発行への助成	後援	特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会	静岡県
5/1-31	新型コロナによる休校に伴う 浜松市内児童養護施設入所者新聞購読事業	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内児童養護施設
6月	新型コロナ感染拡大による生活困窮の児童養護施設出身大学生支援一時金贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内児童養護施設
7/16	第32回スズキビジネスチャリティゴルフ大会	後援	(株)スズキビジネスチャリティゴルフ大会 実行委員会	いなさゴルフ倶楽部浜松コース (浜松市)
8/1-9/14	浜松市内ひとり親世帯小・中・高生へ学業奨励(新聞購読)事業	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内
10/15	第37回中日ボランティア賞贈呈式	主催	中日新聞社会事業団東海支部	ホテルコンコルド浜松 (浜松市)
10/31,11/1	第39回ふるさと知名人チャリティー色紙展	主催	中日新聞東海本社 中日新聞社会事業団東海支部	遠鉄百貨店イ・コ・イ スクエア6階 ギャラリー・ロゼ(浜松市)
11/24-12/28	年末助け合い運動	主催	中日新聞社会事業団東海支部	中日新聞東海本社ほか 静岡県内
12/9	第33回スズキビジネスチャリティゴルフ大会	後援	(株)スズキビジネスチャリティゴルフ大会 実行委員会	いなさゴルフ倶楽部浜松コース (浜松市)
12/16	静岡県西部地区生活保護家庭中学生に図書カード贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区
2/14	第43回静岡県ボランティア研究集会(次年度へ延期)	後援	特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会ほか	浜松市福祉交流センター
2/8	静岡県西部地区生活保護家庭 小学校新入学児童に図書カード贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	静岡県西部地区
3/15	浜松市在住の交通遺児高校進学者へ電子辞書贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内
3/17	社会福祉事業資金造成 第37回中日杯争奪チャリティーゴルフ大会	主催	中日新聞東海本社 中日新聞社会事業団東海支部	豊岡国際カントリークラブ (磐田市)
3/24	児童養護施設入所の高校進学者へ電子辞書贈呈	主催	中日新聞社会事業団東海支部	浜松市内児童養護施設

東 京 支 部

本部および中日新聞東京本社（東京新聞）と緊密な連携をとりながら、東京都を中心とした関東1都6県で、発行銘柄にあわせて『東京新聞社会事業団』名で活動した。社会福祉事業については年末助け合い運動で寄せられた寄付の一部を社会福祉施設などへ助成するための配分員会の設立がコロナ禍で進められなかったため、本年度分も併せて来年度に助成するべく準備を進めている。

【公益事業】

（１）社会福祉向上を目的とする事業の実施、支援事業

a. 障がい者支援事業

・ 2020グリーンリボンランニングフェスティバル

（10月11日・駒沢オリンピック公園および陸上競技場）※中止

東京新聞などが主催し、健常者と視覚などの障がい者、臓器移植者が一緒に走る事を目的とした大会を後援する予定だったが、コロナ禍で中止となった。

・ 第24回全日本 I D（知的障がい者）バレーボール選手権大会

（11月・千葉県浦安市運動公園総合体育館）※中止

例年8月に、知的障がい者のバレーボール全国大会を後援し、参加チームから1名選ばれる「ベストプレイヤー賞」受賞者に盾を贈呈しているが、当初は東京五輪／パラリンピックで2020年11月に延期となり、その後、コロナ禍により中止となった。

b. 高齢者支援事業

・ 「第47回国際福祉機器展」（10月21日～23日・WEB開催）

例年、全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会と協力して、高齢者や障がい者らの自立や社会参加に役立つ福祉機器展（東京ビッグサイト）に協賛しているが、今年はコロナ禍でウェブ開催だったため、主催者からの協賛申請はなかった。

(2) 災害援護に関する事業

a. 東日本大震災・東京電力福島第一原発事故避難者支援事業

・東日本復興支援金

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の行政では出来ない復興支援のための寄託を 8 月末まで実施した。今年度に東京支部に寄せられた支援金は33件、608,415円。

・たまきはる福島基金

東京電力福島第一原発事故で避難を余儀なくされた方々を経済的・精神的にサポートする同基金への寄託を 8 月末まで受け付けた。今年度、東京支部に寄せられた支援金は 7 件、45,000 円。引き続き寄付を希望される方には、基金の振込先をご案内している。

b. その他の災害支援

・令和 2 年 7 月豪雨災害義援金

中日新聞社（東京新聞）に協力し、同義援金の受け付けを 7 月 14 日から 7 月 31 日まで行った。東京支部に寄せられた義援金は 446 件、6,580,528 円。

(3) その他の事業

・年末助け合い運動

東京新聞と同支局などの協力を得て、年末助け合い運動を 11 月 24 日から 12 月 28 日まで行い、期間中に 104 件、1,198,219 円が寄せられた。

[illegible]

岐阜支部

今年度は、コロナ禍で多くの事業が中止となったが、岐阜支部として岐阜県内を対象に、本部・中日新聞岐阜支社と緊密に連携、関係機関・各種団体などの協力を得て、地域に密着した福祉事業を企画・実施した。
また、「中日新聞社会事業団岐阜支部だより」を中日新聞岐阜県版に毎週木曜日掲載し、共催・後援・支援事業の告知に努めた。

◇社会福祉事業

(1) 社会福祉事業に関する助成を行う事業

- ・第3回中日ロボラぎふ就学（職）支援金贈呈式



(2月4日贈呈式・中日新聞岐阜支社)

県内の児童養護施設に入所している高校3年生に対し、大学や専門学校への進学及び就職など新生活に向けての準備を支援するため、1人3万円を、各対象児童の個人口座へ銀行振込で支給した。

今年度（第3回）の対象者：21名

（第1回：34名、第2回：23名）

横川会長に目録贈呈

河津理事長が感謝状受領

- ・「さん・さんアート展 I N十六銀行 障がい者芸術展2020」の後援

(11月24日～12月11日・十六銀行本店)



岐阜県の社会福祉法人さん・さん福祉会と愛知県のNPO法人ふれあいサロンさん・さんガーデンが運営する施設の利用者の作品を中心に展示。

会場は、岐阜市の十六銀行本店1階ロビーで行い毎日絵画づくりの実演を行うなど、障がい者への理解を深めた。

今年度から後援事業とした。

点描の実演をする出品者

◇公益事業

(1) 保健医療電話相談事業支援

「中日新聞社会事業団岐阜支部だより」（毎週木曜日岐阜県版掲載）
を通じて告知し、募集の支援を行った。

＜主な相談内容＞

- ・薬物依存症医療電話相談（毎月第2水曜日）を共催
薬物依存症自立支援団体「岐阜ダルク」の協力で、同症の自立支援
および啓発活動として薬物やアルコール依存症患者に対しての電話相
談を行った。（年間10回）
共催：NPO法人 岐阜ダルク
- ・「心の病家族電話相談」（毎週火、木、金曜日）を後援
精神疾患に伴う悩みを抱えている人に電話相談窓口を開設し、精神
疾患の方及びその家族の支援を行った。（年間143回実施）
※メールでの相談も行い、告知を「岐阜支部だより」に掲載した。
主催：NPO法人 岐阜県精神保健福祉会連合会
- ・「介護者のつどい」を後援
認知症の人と家族の会が主催し、認知症の介護経験を持つ相談員に
よる介護相談を行った。
※コロナ禍で会場の人数制限など規模を縮小して開催した。
※岐阜地区の会場として、岐阜中日ビル8階会議室を使用した。
主催：（公社）認知症の人と家族の会岐阜県支部

(2) 講演会・講座の開催、支援事業

a. 講演会

→コロナ禍ですべて中止となった。

b. 講座

→コロナ禍ですべて中止となった。

c. その他

- ・「ふれあいアートステーションぎふ」（障害者の作品展）を後援
主催：（一社）岐阜県身体障害者福祉協会
（8月19日～31日、11月17日～30日、1月19日～2月1日の3回）
（岐阜中日ビル2階アートカフェ中日茶房）

(3) 社会福祉の向上を目的とする事業

a. 障がい者支援事業

- ・ 第29回中部手話スピーチコンテストを共催（中止）
(11月14日予定→中止・中部学院大学各務原キャンパス)
共催：中部学院大学、(一社)岐阜県聴覚障害者協会
※開催予定であったが、コロナ禍で中止とした。

b. 子育て支援事業

- ・ 岐阜市の母子家庭 東京ディズニーリゾートバス旅行を後援（延期）
(8月下旬予定→延期・東京ディズニーリゾート)
主催：岐阜市母子寡婦福祉連合会
※開催予定であったが、コロナ禍で延期した。

c. その他

- ・ 社会福祉団体へ共催金・助成金を贈呈
岐阜県難病団体連絡協議会など、岐阜県内の各種社会福祉団体15団体に対し178万円を、事業共催分担金及び助成金として贈呈した。
今年度より銀行振込とし、贈呈式は中止した。
- ・ 年末助け合い運動（11月24日～12月28日・岐阜支社管内）
岐阜県内の福祉施設や福祉団体の支援のため、中日新聞岐阜支社と各支局・通信局部などの協力を得て、中日新聞紙面に寄託者を紹介し年末助け合い運動を展開した。

(4) 災害援護に関する事業

- ・ 自然災害発生の援護活動
東日本復興支援金の受付（8月末終了）を実施したほか、7月豪雨義援金については、中日新聞が行う義援金受付について、電話対応などの支援を行った。

中日青葉学園

昭和 35 年に創立された青葉学園は、令和 2 年度に、創立 60 周年を迎えたが、計画していた記念式典は、新型コロナ感染拡大防止対策として令和 3 年度に延期を余儀なくされた。記念の 60 年誌を作成。A 4 版 112 ページで、1200 部を印刷し、県庁、日進市など関係諸機関に配布した。

社会的養育推進計画に基づいて、あおば館は 10 年先を見据えて、小規模化、地域化、多機能化、高機能化を進める。本体施設に 5 つあるホームのうち、中舎、小舎のホームの小規模グループケア化を図る。また、近くに分園を建設する計画で、令和 2 年度は、土地の取得交渉にあたった。県の一時保護所が、コロナ感染関連の児童の受け入れをするため、一時保護児童の入所先が不足したことを受け、あおば館に緊急対応の一時保護ユニット「あすなろ」を 11 月に開設。5 カ月間、4 人の児童を長期一時保護した。里親の拡大を目指し、県の里親フォスタリング事業を受託。10 月から半年、日進市と長久手市を重点地域に、里親の啓発と一部の研修事業に取り組んだ。

あおば館の本体施設もケアニーズが高い児童が多くなることが想定され、児童心理治療施設わかば館との複合施設の強みを発揮できるよう努める。また、児童が地域の人たちと交流する機会を増やし、学園が有する専門的なノウハウを生かして地域の子育て支援に貢献できる社会福祉施設を目指す。

(0-1)新型コロナウイルス対応、対策

令和 2 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、感染防止対策として 2 回、緊急事態宣言が出された。学校も 5 月下旬まで一斉休校となり、夏休みも短縮。全入所児童が常に学園にいる状況となった。職員は、緊張感をもって支援に追われる毎が続いた。

幸いにも、感染者(PCR 検査陽性)や濃厚感染者と認定された入所児童や職員はいなかった。ただし、冬期には、風邪、インフルエンザの流行もあり、発熱する児童も多く、37.5 分以上発熱したり、体調不良の症状があったりした児童は、本館内で「静養室」などの個室で分離生活をした。発熱が 38 度以上で、状況から感染の可能性のある児童は、別棟の退所支援施設「のぞみ」に隔離して、感染の防止に努めた。当初は、PCR 検査を受けても結果が出るまで、3 日ほど隔離生活をした。「のぞみ」は、感染の可能性のある児童が寝起きする部

屋、着替える部屋、出入りする職員の部屋などにゾーン分けをし、付き添いの職員は、PCR検査結果が判明するまでは、防護服を着てビニール手袋をして対応した。秋からは、かかりつけの医療機関で独自にPCR検査ができるようになり、翌日には、検査結果が分かるようになった。発熱などによりPCR検査を受けたのは、入所児童8人、職員7人だった（いずれも陰性）。

感染防止のため、3密「密集、密接、密閉」を避けることを努め、手洗いの徹底、建物の部屋・ホールの換気、机やドアノブなどのアルコール消毒などをこまめに行っている。寄贈により、新型コロナウイルスを不活化する光触媒によるコーティングを机などに実施した。

（0-2）コロナ渦の活動＝行事、施設長会活動、部活動等

学園行事や、県児童福祉施設長会主催の行事も中止となるものが多かったが、人数を減らすなど工夫して活動し、行事に参加した。

▷卒園生ら学園関係者が集う「つつじの会」は延期した。

▷夏に1泊で実施してきた目的別活動は、参加者を減らして日帰りで行った。あおば館はホールごとに秋まで期間を延ばして実施。わかば館は海、川の2コースで実施した。

▷「青葉まつり」は、外部の人を招かずに、園内児童と職員が楽しむ行事に簡素化し「青葉お楽しみ会」として実施した。

クリスマス会は12月23日に、あおば館はホールごと、わかば館は多目的ホールで行った。

▷退園を祝う「巣立ちの会」は、来賓を保護者と分校教師に限定して開催した。対象者は、3月末までに高校を卒業して自立する子どもを中心に、家庭復帰する小学生も含めて16人。

▷施設長会主催の行事では、夏季球技大会ソフトボールの部、卓球の部は中止となったが、有志の施設で交流試合を企画。学園も参加した。フットサル大会、親善マラソン大会は中止された。

「音楽の集い」は中止されたが、和太鼓同好会は、あおば、わかば両館合同で練習は続けており、多目的ホールで学園の児童、職員に披露した。器楽演奏部は、わかば館の中学生以上の希望者でバンドを結成して、わかば館内で披露した。

（0-3）コロナ渦の対応＝ボランティア、学園見学

▷福祉サービスの援助者として、また、地域に開かれた施設を目指し、ボラン

ティア活動の受け入れに力を入れているが、外部の人がホームに入ることを制限。洗濯物の整理などをしていただく「ライラック」をはじめ、ほとんどのボランティアの方々の活動を遠慮していただいた。児童の理美容奉仕の「竹の子会」の活動は、緊急事態宣言が解除されている期間にお願いをした。

▷学園の見学を目的とする団体、個人はお断りした。緊急事態宣言が解除された時期には、寄贈で来園された方など、ホーム入口などで時間を限って見学していただいた。

（１）安全安心・権利擁護

児童福祉施設は、児童が「安全で安心して暮らせる」場所であることが求められている。児童同士の「いじめ」「暴力」には適切に対応、被害が大きくならないように努めるため、「安全安心委員会」の名のもとに、関係職員が連携を取り、対応に当たっている。月１回の避難・消火指導を行い、児童全体会で安全マップをもとに学園敷地内の遊び方、自転車の正しい乗り方などを伝えている。

被措置児童虐待防止に向け、児童間の暴力、職員から児童への不適切な関わらないように、最優先事項として取り組んでいる。

（２）問題行動・事故

児童相談センターと連携し支援を行った問題行動は、あおば館で２件（無断外出など）、わかば館で４件（暴力行為２件、無断外出２件）起こった。職員の不注意により児童がけがをした事例があおば館で２件あった。ともに軽傷。自転車による事故があおば館で１件あった。それぞれ事案ごとに安心安全委員会で、背景の分析と再発防止を検討した。

（３）苦情・意見

入所児童が気軽に意見を表明できるよう設置している苦情意見箱には、年間あおば館３件、わかば館２１件の苦情、意見、悩み相談があった。前年度と比べると、児童間のトラブルについての相談は減ったが、職員の対応への苦情や要望、自分の生い立ちの悩み相談が増えた。名前が記載してあるものや内容から相談者が特定できるものは、その都度職員が面談し、説明、調整などの対応をした。

また、法人が設置している苦情解決制度の利用を希望する保護者や入所児童はいなかった。

(4) 合同職員研修

新型コロナの感染対策について、4、8、12、1、2、3月の6回、発熱時の対応や、分離・隔離をした際の防護服の着用方法や隔離棟のゾーン分けなどについて学んだ。他の研修は、下記の通り

5月	育成シートを使った職員育成
7月	熱中症・食中毒対策
9月	学園の社会的養育推進計画
10月	フォスタリング事業、緊急一時保護ユニット、分園
3月	被措置児童虐待防止

外部講師を招いての研修では、10月に、中央児童・障害者相談センター企画・児童指導課の井上香奈子課長に、学園の課題、期待することについて、2月には、誕生学アドバイザーの澤田貴美子さんに、人が生まれてくると、生きることを意味を学ぶ誕生学について講演していただき、意見交換した。

(5) 職員表彰

▽勤続表彰

あおば館 10年1人、5年1人

わかば館 25年1人、10年1人、5年4人

(6) 法人監査

公印管理が不明確であるとの指摘を受け、公印管理規定を設け、押印時には公印使用簿に記載するようにした。受診券など重要書類の管理方法が不十分であったことから、保管場所をリスト化するなど職員に管理を徹底した。規定に基づいた業務意識が不徹底との指摘を受け、会議などで、周知を図っている。金銭管理は、前年度と比べて改善しているが、預り金・金券の確認が規定通りに実施されていない、と指摘された。規定を見直すと同時に、令和3年度から管理簿を一新して実施を徹底する。

(7) 施設整備

前年度から工事を進めていた分校の特別教室棟が完成し、6月10日に完成式を実施。利用が始まった。木造2階建てで、延べ床面積314,5平方メートル。

体育倉庫、多目的室、美術室、理科室などが入る。

分園の開設を目指して、土地の取得にあたった。当初の予定地では、住民説明会を開いたものの、地域住民の反対があり、断念。秋には、別の候補地で、地域住民に個別に説明を続け、反対の声はなく、仮契約にこぎつけた。候補地は、1422.41 m²(430 坪)で、住居棟 2 棟と管理棟 1 棟を建設予定。令和 3 年秋に完成予定で、分園として、令和 4 年 1 月に女子児童 6 人、令和 4 年 4 月に男子児童 6 人が生活を始める計画。

(8) 調理・食育委員会

児童嗜好アンケートを継続し、メニュー作りに生かしている。

また、ホームキッチンの衛生状態、冷蔵庫の使用状況をチェック、賞味期限切れの食品がある場合は注意するなど衛生管理にあたった。

重い食物アレルギーのわかば館児童にはアレルギー食を用意しているが、通院しているアレルギー専門医の指導の成果もあり、改善が進んでいる。

▷調理員と両館職員合同で食育委員会を開催。「食を通じて子どもの情緒を育む」を目標として掲げ、子どものリクエストメニューを計 6 回実施した。あおば館では、月 1 回、ホームごとに調理員が参加しての夕食づくりを計 12 回実施した。献立表を見る子どもが増え、食事を通じての会話が增えた。

わかば館では、女子ホームで、お菓子づくりを計 4 回実施した。

(9) 大学等進学支援

法人本部の大学等進学支援として、大学、専門学校へ進学したあおば館 5 人、あおば館退園生 2 人の計 7 人に支援金(返済義務のない奨学金)を給付した。

(10) 外部との関わり

学園長が、日進市社会福祉協議会の理事、職員が日進市の要保護対策協議会の委員や名古屋市キャリア支援アドバイザーになるなど各関連機関・団体の委員や講師として参加し、地域の子育て支援、地域福祉支援の一翼を担っている。

(11) その他

くらちゃんハウスが青葉お楽しみ会に参加したり、くらちゃんハウスへ職員を派遣したりするなど、ファミリーホームとの連携を図った。

第三者評価の自己評価は年度内にできず、令和 3 年 4 月に実施予定。

中日青葉学園人員構成

▽職員構成・職員数＝令和3年3月1日現在

あおば館	人 員	担 当 職 務
館長(学園長)	1	運営管理
指導課長	1	指導統括
課長	1	サテライト担当
事務課長	1	事務統括
指導係長	1	生活指導
主任指導員・保育士	2	生活指導
指導員・保育士	13	生活指導
主任心理士	1	心理治療(生活指導)
心理士	1	心理相談
栄養士	1	栄養管理
給食係	4	給食実務
嘱託医	1	健康診断
非常勤	4	生活指導補助、幼児教育、里親支援、一時保護支援
小計	32	
わかば館 (児童心理治療施設)	人 員	担 当 職 務
館長(指導療育部長兼務)	1	運営管理
医師(非常勤)	4	医療業務
指導課長	1	指導統括
指導係長	1	生活指導(統括)
主任指導員・保育士	1	生活指導
指導員・保育士	12	生活指導
事務	1	経理事務
看護師	1	健康管理
心理係長	1	心理統括(生活指導)
主任心理士	2	心理治療(生活指導)
心理士	2	心理治療(生活指導)
給食係	3	給食実務
非常勤	2	生活指導補助
小計	32	
フォスタリング担当	1	里親啓発
小計	1	
合計	65	

▽児童数 (令和3年3月1日)

施設別	性別	幼児	小学生	中学生	高校生	その他	計
あおば館	男 子	5	5	5	5	0	20
	女 子	3	11	6	3	0	23
わかば館	男 子	0	6	7	2	0	15
	女 子	0	7	4	5	0	16
計		8	29	22	15	0	74

児童養護施設あおば館

あおば館は、定員 45 人。4 月 1 日の在籍児童は、小学生から高校生までの男、女各 2 ホームと男女幼児の 1 ホームの計 5 ホームで、計 37 人。職員は、非常勤を含め 31 人、パート 4 人の体制で、子どもたちの支援にあたった。

()内は定員

	男子	女子	男女幼児
3 階	ひのき 5 人(7 人)	もみじ 14 人(14 人)	—
2 階	けやき 7 人(8 人)	しらかば 5 人(8 人)	さくら 6 人(8 人)

・施設形態：小規模グループケア=ひのき、しらかば、さくら

小舎=けやき 中舎=もみじ

・コロナ対策の緊急一時保護ホーム「あすなろ」を 11 月に開設。翌年 3 月末まで 4 人の児童を支援した。

(1) 子どもの入退所実績、入学、卒業状況

	男子	女子	計
入所	5 人	1 人	6 人
退所	4 人	3 人	7 人

延べ入所者数は 14 8 2 3 人

一時保護児童数は 39 人、452 日

		男子	女子	
令和 2 年 4 月入学	中学校	—	2 人	
	高校	2 人	—	
令和 3 年 3 月卒業	小学校	2 人	3 人	
	中学校	2 人	—	高校進学
	高校	2 人	2 人	大学進学

(2) 性教育委員会

前年度から取り組んでいる「予防教育」と「問題の把握」を引き続き実施。児童に性教育として「S 会」と名付け、小学生には「清潔」「人との境界線」「プレイベートパーツ」、中高生には思春期の体の成長、デートDVなどを伝えた。

(3) 心理対応

心理士 2 人が、カウンセリングやプレイセラピーなど個別心理療法、コンサルテーション、生活場面でのアセスメントや面接を行った。

（４）個別対応と家庭支援

個別対応職員は、被虐待児童の特性に寄り添った支援を実施。２人配置した家庭支援専門相談員は、家族再統合に向け、子どもの面談や保護者の子育て相談・家庭訪問を実施。本年度６人が家庭復帰した。

新型コロナウイルス感染予防の観点から面会、外出、帰省が制限された期間が長く、保護者がいても家族交流ができない児童が多数おり、物理的接触ができない中での家族交流の方法が課題となった。

（５）退所者支援

コロナ渦において大学進学後も通学、アルバイトができず、新生活に不安を抱く卒業生の相談を受けたり、奨学金の申請手続きを手伝ったりした。大学卒業に際しての引っ越し作業や住居契約手続きの支援も実施した。退園後の男女５人を継続して支援している。

また、退園後数年を経ても、対人関係の問題から生活が安定しない卒園生に対し、相談にのったり、住居契約手続きを手伝ったり、再就職支援などにあたった。

（６）福祉事業ポイント

愛知県民間社会福祉施設運営費補助制度の福祉事業ポイント加算では▷社会福祉実習の受け入れ▷教員養成介護体験等の受け入れ▷福祉人材育成への取り組み▷福祉避難所▷一時保護の実施 300 日以上▷里親支援事業▷退所児童支援事業▷家庭的養護の推進…の８項目７ポイントを申請した。

（７）社会的養育推進計画

施設の小規模化、地域化を求める推進計画を実現するため、分園を開設する土地を探した。当初の候補地は、周辺住民の理解が得られずに、断念。新たに見つけた候補地では、近隣住民に丁寧な説明を重ねた結果、理解を得て、取得の仮契約に至った。令和３年度に、居住棟２棟（児童６人ずつ）と管理棟を建設し、年度内に女子、翌年４月に男子の子どもが生活を始める計画。設備面の検討に加え、分園で生活する子どもの選定の仕方や、支援の仕方などについて話し合いを重ねた。

（８）里親支援

平成 30 年から里親支援専門相談員を配置し、専門性をいかして里親と児童との関係づくりを支援している。里親制度についての啓発や里親登録前研修、里親支援研修への参加、協力をした。月２回の児童相談所主催の里親サロンの企画運営にもあたった。学園を会場とした養育サロンを６回開催した。里親家庭に延べ

120 回訪問したほか電話相談をした。里親委託の推進の取り組みや、アフターケア、里親会の活動支援もした。レスパイトケアの調整も行った。いずれも、新型コロナウイルス対策をとりながら、里親に寄り添う支援にあたった。

(9) コロナ渦の活動

▷職員研修

研修の多くが中止されたが、全国児童養護施設協議会、中部児童養護施設協議会、愛知県社会福祉協議会、愛知県児童福祉施設長会、子どもの虹情報研修センターなどの各種研修で、人数制限などをした研修や ZOOM による研修に参加した。

▷実習生

ホームに入っの現場実習は見送り、会議室や多目的ホールを会場に、スクーリング形式で行った。

保育士実習 102 人、教員免許特例法による介護等体験 35 人、心理実習 29 人、社会福祉援助技術実習 2 人を受け入れた。

▷学習

緊急事態宣言が解除された期間に、小学生を中心に週 2 回、ボランティア 3 人の協力で公文の学習をした。また、希望する中高生には、個別で学習ボランティアによる個別の指導を受けている。

▷子ども会

地域との交流活動で、小学生 7 人（男子 2 人、女子 5 人）が市場町側の子どもの会に加入したが、ほとんどのイベントの開催が見送られた。緊急事態宣言が解除された後に行われたボウリングなどの行事に参加した。

(10) 緊急一時保護ユニット「あすなろ」

新型コロナウイルスの感染拡大により、県の一時保護所に、感染した家族の子どもが入所することになり、県から、緊急の一時保護ユニットの開設を依頼された。11 月から翌年 3 月末まで 5 カ月、小学生 3 人と中学生 1 人を長期に一時保護した。

通常、一時保護所は、他の児童との交流が制限されるため、学校に通うことができず、施設内にとどまって生活することを強いられ、「学習権が保証されていない」との指摘もある。学園は、分校を併設していることから、「学校に通うことができる長期に保護が必要な子ども向けの一時保護ユニット」として運営にあたった。県、県・日進市教育委員会の協力を得て区域外通学の許可をとり、前籍校が通常学級であっても、学校長の判断で特別支援学級である分校に通う

ことができることになった。

分校では、学園の児童・生徒と同じクラスの一員となって学習。かつて分校で教鞭をとった OB 教師 5 人が県教委と契約を結んで、補助的に支援していただいた。学園に戻ってからは、両館の職員に加え、OB 職員が生活の支援にあたった。休み中も、学園で、この 5 人が学習支援員として学習指導をしていただいた。新年度からは、あおば館に 2 人、わかば館に 1 人、他県の施設に 1 人、それぞれ措置変更された。

児童心理治療施設わかば館

わかば館は、男女2ホームで定員35人の大舎制をとる。4月1日の在籍児童は、小学生から高校生まで計32人。職員は非常勤を含め33人の体制で子ども達の支援にあたった。「生活の質の向上を図るなかで未来に希望の持てる日常を取り戻す」を目標に掲げて臨んだ。無断外出、器物破損、自傷行為、児童・職員への暴力など難しい対応もあったが、職員のチームワークで子どもを支えることができた。

もえぎ・男子	あさぎ・女子	
15人（定員17人）	17人（定員18人）	計32人 定員35人

平成31（2019）年に大規模なリフォームを実施、プライバシーの保護と個別対応が強化されたこともあり、今年度は大きな性的なトラブルは起きなかった。

（1）子どもの入退所実績、入学、卒業状況

	男子	女子	計
入所	2人	3人	5人
退所	3人	4人	7人

延べ入所者数は11666人

一時保護児童数は女子3人、14日

		男子	女子	
令和2年4月入学	中学校	3人	0人	
	高校	1人	2人	
令和3年3月卒業	小学校	1人	4人	
	中学校	2人	1人	就職1、高校・専修学校進学2
	高校	0人	2人	就職1、専門学校進学1

中学校を卒業した3人のうち1人はわかば館で入所を継続。1人はあおば館に措置変更、1人はグループホームから就労支援B型に通うことになった。

（2）性教育委員会

月に1回、あおば館性教育委員との情報交換を行う。

生活の中での性教育の在り方を考え、日々の支援に生かした。また、学校との情報交換も行った

退園児童を対象に、個々に生活担当者と看護師で性教育を行った。

（3）心理対応

不登校や情緒不安定な児童のほか、最近は発達障害児や重篤な虐待を受けて入所する子どもが増え、生活場面で特別な配慮が求められることが多くなって

いる。心理職（常勤５人、非常勤１人）が、わかば館１階の治療棟で１回４５分の個別のセラピーを行った。子どもと心理士の関係性を基盤に日常生活の生きづらさに折り合いがつけられるよう心理士の知見を基にアプローチした。また、指導員、保育士と子どもの見立てについて協働し、生活全体が治療的環境になるように整えた。

また、非常勤の精神科医２人には子どもとの面談、カンファレンスへの出席、行事への参加など、多様な側面から子どもとの関わり持ってもらい、子どもの状態の見立てや療育方法についてのスーパーバイズを受けた。加えて、職員との面談を通して職員のメンタルヘルスについてもアドバイスを受けた。

（４）家庭支援

子ども１人１人の特性に合った、治療・支援が行えるように、子ども１人に対し生活担当、心理担当、家族支援担当の職員を配置し、３者が共同してケアプランを作成。よりきめ細かい支援が行えるようにしている。

本年度の退所先は、家庭復帰２人、あおば館への措置変更１人、里親への措置変更１人、自立２人、グループホーム１人であった。

（５）児童支援

入所児童の多くが心療科に定期的に通院しており、医療機関との連携強化に努め、個々のケースに合わせてより専門的な視点で治療が行えるようにしている。

児童相談センターとも連携し、保護者への子育て支援プログラムの実施や、家庭復帰を目指して地元校や各関係機関や支援者との関係者会議等も積極的に行い、家庭復帰や児童養護施設等への措置変更に役立てた。

里親に措置変更をしたケースでは、継続してレスパイトを行い、里親支援も行った。

日々の取り組みでは、男女それぞれのホームで毎日その日を振り返る「もえぎ会議」「ガールズミーティング」を継続して実施。子ども達の意見を言える場を設けている。

（６）学習

高校受験については、個々の進路に応じた学習に取り組めるよう分校とも協力して個別対応を実施した。

（７）福祉事業ポイント

愛知県民間社会福祉施設運営費補助制度の福祉ポイント加算では▷福祉人材育成▷教員養成介護体験▷福祉避難所▷社会福祉実習受け入れ▷一時保護委託の実施▷被虐待児の受け入れ▷退所支援事業▷保護者支援事業…の８項目で 7.5 ポイン

トを取得した。

（８）コロナ渦の活動

▷職員研修

外部研修に参加することができなかったが、オンラインでの研修も増え、年度後半ではオンラインでの研修に参加した。

また、指導課長が全国児童心理治療施設研修委員会、心理士１人が中部ブロック職員研修運営委員会・研修運営委員になっているが、本年度はオンラインでの活動を行った。

▷実習生

児童が生活しているホーム内への実習生の受け入れはできなかったことから、スクーリング形式や講義形式で実施。保育士実習 73 人、看護実習 42 人、教員免許特例介護等体験 15 人、心理士実習 6 人、社会福祉実習 3 人の実習を行った。

▷生活訓練

学校の休業期間が長く、外出制限があったことから、食育活動として、野菜作りやお菓子、料理作りなどを職員と共に楽しんだ。

中日青葉学園主な行事

開催日		事業名
4月	6日	北小学校入学式
	7日	日進中学校入学式、高校入学式、日進ベタニヤ幼稚園入園式
5月	2～6日	ゴールデンウィーク活動日（キックベース、ドッジボール、お菓子作り）
8月	5日、9月26日	わかば館目的別活動 知多半島で海釣り体験、郡上で川体験
	2日～10月17日	あおば館ホーム別目的別活動 中津川森林体験、知多半島、佐久島など
	29日	わかば祭り
9月	21日	施設長会ソフトボール交流会参加
10月	3日	施設長会卓球交流試合
	5日	焼肉訪問
	26日	青葉お楽しみ会
11月	21日	お抹茶外出
12月	26日	スケート招待
2月	13、17日	花贈りイベント
3月	1日	県立高校卒業式
	3日	日進中卒業式
	19日	北小卒業式
	20日	巣立ちの会、離任式、日進ベタニヤ幼稚園卒園式
	26日	旅立ち茶会
	6～27日	年度末外出 長島スパーランド、三重・アスレチック、犬山城下町めぐり

主な行事、出来事の写真



榊原温泉から寄贈された温泉で足湯
(5月2日)



キックベースボール大会(5月2日)



分校児童がオンライン授業
(5月)



分校第2学習棟完成式(6月10日)



しらかば佐久島旅行
(9月19日)



ソフトボール交流会(9月21日)



卓球交流会(10月3日)



お抹茶外出(11月21日)



花贈りイベント(2月13日)



巣立ちの会(3月20日)

子育て短期支援事業

児童養護施設中日青葉学園あおば館では、日進市、東郷町と提携し、提携市在住の保護者が疾病等の理由により一時的に児童の養育が困難になった際に、該当児童を養育が再開できるまでの間、保護者の代わりに保護、養育を行う「子育て短期支援事業」を実施している。

令和２年度に関しては、数年ぶりに利用希望がなかったため実績なしとなった。今後についても、気軽に利用できるサービスとして、地域住民の子育てに関する社会資源として継続していきたい。

社会福祉充実計画

当法人では、平成30年度から厚生労働省より認可をうけ10か年にわたる社会福祉充実計画を策定。

本年度は、計画の3年目として以下のとおりの事業を実施した。

(1) 社会福祉助成事業

当法人のホームページなどで中部地域、関東地域の社会福祉事業実施団体に
対し、本事業の案内を実施し令和2年11月1日～12月28日に申請を受け
付けた。児童養護施設や小規模住居型児童養育事業、母子支援施設、就労継続支
援B型などから申請があり、配分委員会で承認を受けた13事業に、総額1,8
85万円を助成した。

(2) 児童心理治療施設 学習棟 特別教室棟建設工事

児童心理治療施設である中日青葉学園わかば館の児童が通う園内の分校では、
理科室や美術室がなく、老朽化の進んだ旧職員宿舎で実験や実習の授業を行っ
ており、専用の設備もないことから、特別教室棟を建設。理科室、美術室のほか
一時保護児童等のための学習室やスクールカウンセラー用の相談室等も備える。

令和元年度に総工費81,415,000円で着工しているが、新型コロナウイルス感
染症拡大により、中国製の部品の多くが入手困難となり引き渡し日が未定とな
った。令和2年6月に完成し、本年度の事業として振り替えた。

地域における公益的な取り組み

当法人では、中日青葉学園内にフリーダイヤルを設置し、社会福祉士、保育士、心理士などによる地域住民からの子育て相談を実施。

令和２年度の利用実績は下表のとおり。

【新規相談件数】 総数 ２件

４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
０	０	０	０	０	１	０	０	０	１	０	０

【継続相談件数】 延べ件数 ０件

４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
０	０	０	０	０	０	０	０	０	０	０	０

【主な相談内容】※重複あり

子育て一般	発達相談	不登校	虐待	いじめ	その他
０	２	０	０	０	０

里親フォスタリング事業

愛知県から、里親を増やす啓発活動などを行う事業を受託し、中日青葉学園内で里親フォスタリング事業を本年度より開始。中日青葉学園フォスタリングセンターと呼称し体験発表などをはじめ、様々な活動をおこなった。委託業務名は、「令和2年度里親制度重点エリア啓発及び里親研修事業」。新型コロナ感染拡大のため、年度後半の10月から翌年3月までの半年間となった。日進市と長久手市を重点エリアとし、ショッピングモールなどで休日を含めた定期啓発活動を実施。市内の店舗や学校等行政機関と連携を図り、普及啓発に努めた。夜間や休日に養育里親体験発表会を開催。里親の実体験と質疑応答の機会を設けて移行支援につなげ、登録を目指す家庭を増やす活動に取り組んだ。また里親制度の普及にも努めた。

【啓発事業】

スーパー等	店舗啓発資材設置	大型ショッピングモール啓発	新聞、広告等掲載
38 回	57 店舗	13 回	4 回

【SNS 等の発信】

ホームページ	YouTube 動画①	YouTube 動画②	Facebook
325 アクセス	70 回	80 回	フォロワー20 人 リーチ最大 334 回

【養育里親体験発表会】※重複あり

実施回数	参加者	登録研修	移行支援
6 回	延べ 93 人	4 家庭	4 家庭登録移行あり

【研修事業】

実施回数	参加者
3 回	延べ 30 人

高額寄付(一般)

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)敬称略、順不同

本部(20万円以上)			
寄付者名	市町村名	寄付者名	市町村名
中央電気工事(株)	名古屋市	(有)ワタナベ営繕設備	名古屋市
(一社)愛知県指定自動車教習所協会	名古屋市	近藤産興(株)	名古屋市
(株)豊田自動織機	刈谷市	荒川 光夫	名古屋市
日本ガイン(株)	名古屋市	(株)知多繋	名古屋市
名古屋ビルディング(株)	名古屋市	おおやま歯科医院	名古屋市
(株)真城	名古屋市	協栄興行(株)	東海市
(株)三清社	名古屋市	(株)エアウィーブ	東京都
東海マツダ販売労働組合	名古屋市	石原住宅(株)	名古屋市
(公社)中部日本書道会	名古屋市	松本三良記念福祉会	東海市
原岡 潔	名古屋市	第一生命労働組合 中京総合支部	名古屋市
第一生命労働組合 名古屋総合支社・名古屋西支社	名古屋市	五月会	半田市
		名古屋競馬(株)	名古屋市
東郷産業(株)	名古屋	トヨタ紡織(株) 課長会	豊田市
トヨタ紡織(株) 飛躍の会	豊田市	NTPホールディングス	名古屋市
稲沢市職員互助会	稲沢市	新東工業(株)	名古屋市
トリックス(株)	三重県	名古屋駐車場案内システム協会	名古屋市
JSA中核会名古屋支部	名古屋	トヨタカローラ愛知(株)	名古屋市
日本特殊陶業(株)	名古屋	子ども夢プロジェクト事務局	名古屋市
愛知中古自動車販売商工組合	海部郡	ネットトヨタ中部(株)	名古屋市
(一社)愛知県LPガス協会	名古屋	萩原電気ホールディングス	名古屋市

*匿名は省かせていただきました

高額寄付(一般)

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)敬称略、順不同

北 陸 支 部 (10万円以上)			
寄託者名	市町村名	寄託者名	市町村名
ひろメンタルクリニック	金沢市	こばと保育園・こばと第2こども園	小松市

東 海 支 部 (10万円以上)			
寄託者名	市町村名	寄託者名	市町村名
浜松開誠館高校 アメリカンフットボール部後援会	浜松市		

東 京 支 部 (10万円以上)			
寄託者名	市町村名	寄託者名	市町村名
「小さな親切」運動ちばぎん支部	千葉市		

岐 阜 支 部 (10万円以上)			
寄託者名	市町村名	寄託者名	市町村名
濃尾電設共済会	岐阜市	中部日本書道会岐阜支部	揖斐川町
岐阜社会福祉事業協力会	岐阜市	中部日本書道会濃飛支部	高山市
岐阜信用金庫	岐阜市	谷合仏教会	山県市
内藤 弘志	岐阜市	酒井 恵美子	郡上市

高額寄付(指定)

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)敬称略、順不同

*匿名は省かせていただきました

本部(20万円以上)		
団体名(会社名)	市町村名	贈呈先
株式会社 GRIP	東京都	東日本復興支援金
大本山 成田山名古屋別院大聖寺	犬山市	難病者激励金
大本山 成田山名古屋別院大聖寺 索の会	犬山市	難病者激励金
中央電気工事(株)	名古屋市	東日本復興支援金
(一社)愛知県指定自動車教習所協会	名古屋市	東海交通遺児を励ます会
〃	〃	脳外傷友の会みずほ
西浦不動無量寺	蒲郡市	がん撲滅
愛知日野自動車(株) 新和会	名古屋市	東海交通遺児を励ます会
徳弘 妙子	名古屋市	中部盲導犬協会
愛知中古自動車販売商工組合	海部郡	東海交通遺児を励ます会

東京支部(10万円以上)		
団体名(会社名)	市町村名	贈呈先
ちば興銀ともしびの会	千葉市	日本赤十字社

*匿名は省かせていただきました

社会福祉法人 中日新聞社会事業団

	所 在 地
本 部 事 務 局	〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号 中日新聞名古屋本社内 Tel. 052-221-0580 Fax. 052-221-0839
北 陸 支 部	〒920-8573 石川県金沢市駅西本町二丁目12番30号 中日新聞北陸本社内 Tel. 076-233-4644 Fax. 076-233-7831
東 海 支 部	〒435-8555 静岡県浜松市東区薬新町45番地 中日新聞東海本社内 Tel. 053-421-6217 Fax. 053-421-5987
東 京 支 部	〒100-8505 東京都千代田区内幸町二丁目1番4号 中日新聞東京本社内 Tel. 03-6910-2520 Fax. 03-3503-1438
岐 阜 支 部	〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地 中日新聞岐阜支社内 Tel. 058-265-0283 Fax. 058-263-7010
児童養護・児童心理治療施設 中 日 青 葉 学 園	〒470-0131 愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164 Tel. 0561-72-0134 Fax. 0561-74-2315